



平成 29 年度 水稲生育診断情報 No.4

(平成 29 年 7 月 27 日)

(情報作成) 滋賀県農業技術振興センター

近江八幡市安土町大中 516 (TEL:0748-46-4391)

(今回は 8/22 頃の予定)

現在の生育状況

◎各品種とも生育は平年より早い。

(農技センター5月10日移植「コシヒカリ」の出穂期は7月25日で4日、「秋の詩」の幼穂形成期は7月11日で7日、平年より早い。)

管理のポイント

【病害虫防除】

◎斑点米カメムシ類については、カスミカメムシ類の発生が多いため、乳熟期頃(出穂7~10日後)に防除を行う。

◎出穂期に大型カメムシ類を確認したほ場では、糊熟期頃(出穂10~20日後)にも防除を行う。

【水管理】

◎出穂期前後各3週間は常時湛水を行う。

◎収穫5日前まで落水しない。

【適期収穫】

◎出穂後の気温が高い予報となっており、登熟日数が短くなる可能性が高いので、刈り遅れないよう準備を整えておく。

☆「みずかがみ」栽培だより=(P6)もご覧ください。

農業技術振興センターホームページの「みずかがみ」コーナーもご参照ください。

1 気象の経過と予報

(1) 気象の経過 (彦根气象台観測、平年は過去10年間の平均)

期間	要素	最高気温	最低気温	日照時間	降水量
	7月	上旬	高い	高い	やや多い
	中旬	高い	高い	多い	やや少ない

(2) 近畿地方1か月予報【大阪管区气象台7月27日発表(http://www.jma.go.jp/longfost/106_00.html)】

- 平年と同様に晴れの日が多い。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率50%。
- 降水量は、平年並または少ない確率ともに40%

2 生育状況

【農業技術振興センター 水稲作況調査(7月20日時点)による。表1、表2および後掲グラフ参照。】

- 草丈は、生育が早まっていることもあり、「コシヒカリ」では平年よりやや長く、「秋の詩」では平年並までになった。

- 茎数は、両品種ともに平年より多かった。
- 葉数は、両品種ともに平年並であった。
- 「コシヒカリ」の幼穂形成期は7月2日で平年より3日早く、出穂期は7月25日で平年より4日早かった。
- 「秋の詩」の幼穂形成期は7月11日で平年より7日早く、過去10年で最も早かった。



7月20日時点の「コシヒカリ」
茎数 581 本/m²(26.2 本/株)



7月20日時点の「秋の詩」
茎数 611 本/m²(27.5 本/株)

表1 平成29年(2017年) 水稻作況調査 生育調査結果

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

基準日 月/日	品種名	草丈(cm)				茎数(本/m ²)				葉色(SPAD値)				主稈葉数(枚)			
		本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	比	前年	本年	平年	較差	前年
7/10	コシヒカリ	77.7	79.8	97	84.9	738	618	120	605	37.5	36.0	104	34.7	11.6	11.4	0.2	12.0
	秋の詩	65.2	70.1	93	74.4	747	638	117	582	40.5	43.4	93	38.1	11.1	11.0	0.1	11.4
7/20	コシヒカリ	95.6	91.0	105	94.5	581	534	109	563	38.5	35.4	109	34.8	12.7	12.7	0.0	13.2
	秋の詩	78.5	80.7	97	80.2	611	564	108	556	36.3	36.8	99	35.9	12.3	12.0	0.3	12.5

移植日: 5月10日(播種日: 4月20日)、栽植密度: 22.2株/m²、植付本数: 4本/株

基肥: N成分3kg/10a、追肥: N成分2kg/10a(「コシヒカリ」6月10日、「秋の詩」6月20日施用)、穂肥: N成分2kg/10aを2回分施

表2 水稻作況調査 生育ステージ

滋賀県農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)

品種	生育ステージ	本年	平年	平年との較差	前年
コシヒカリ	幼穂形成期	7月2日	7月5日	3日早い	7月2日
	出穂期	7月25日	7月29日	4日早い	7月25日
秋の詩	幼穂形成期	7月11日	7月18日	7日早い	7月13日
	出穂期	未	8月12日	—	8月7日

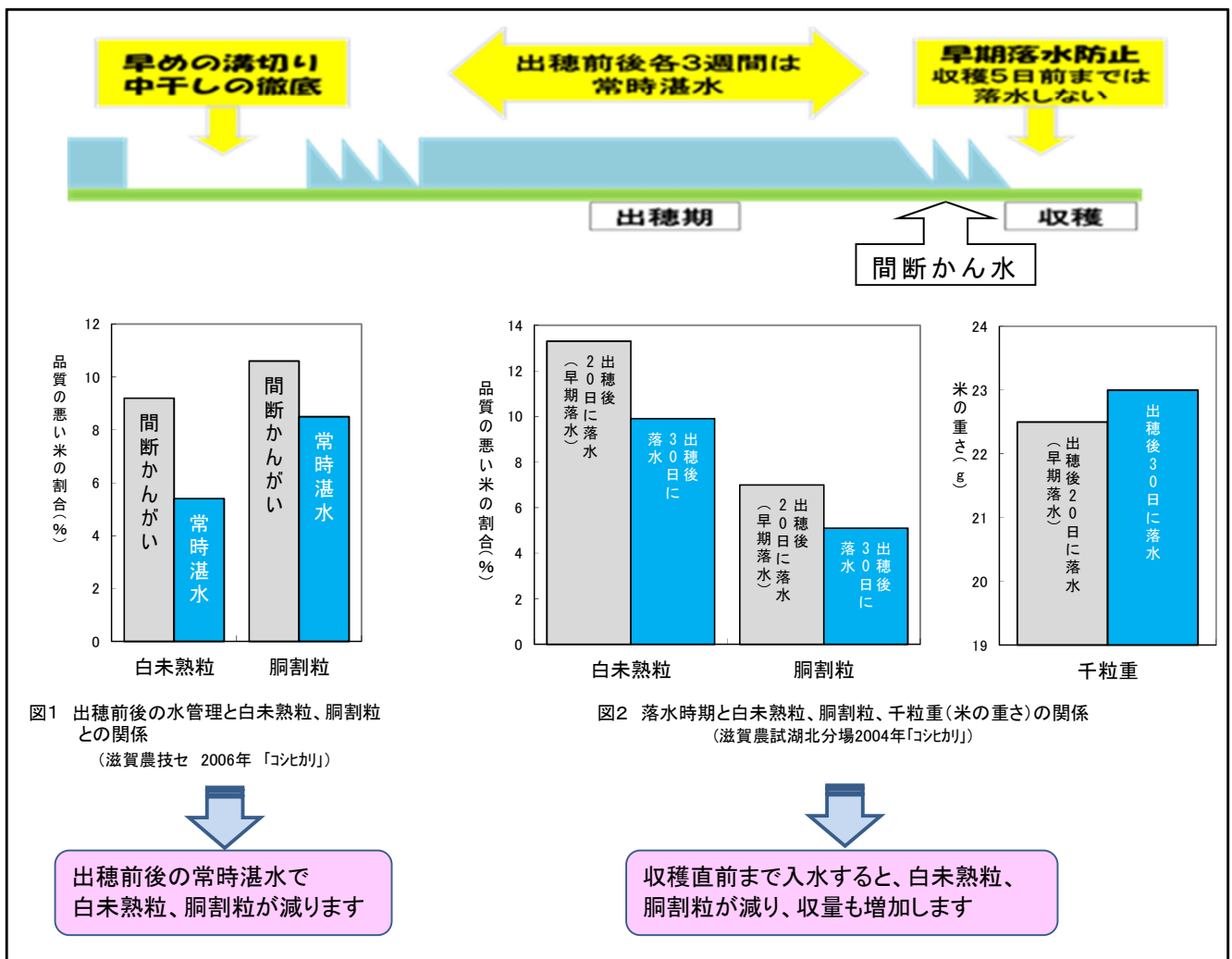
栽培条件は表1と同様

3 今後の管理

(1) 適正な水管理

- 出穂期前後は、水稻の一生の中で最も多くの水を必要とする時期であり、水が不足すると稲が十分に光合成できず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されるため、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う(図1)。
- 落水時期の目安は収穫の5日前であるが、収穫作業に支障がない限り出来るだけ遅らせ、根や葉の活力を収穫直前まで維持させる(図2)。

※用水利用にあたって、掛け流しや深水管理等、必要以上の取水にならないよう、こまめな水管理を徹底する。



(2) 適期収穫

- 出穂後の気温が高い年は登熟日数が短くなる傾向にあるので、早生品種(「コシヒカリ」等)だけでなく、中生品種(「秋の詩」等)でも、出穂後30日を過ぎたら収穫できるよう準備を整えておく。
- 収穫時期が近づいたら、ほ場に入って穂(籾)をしっかりと確認し、黄化籾が85~90%になった頃に収穫する(目安は、籾黄化率50%程度で収穫7日前)。特に、高温年は出穂のばらつきが大きくなる傾向があるので、収穫適期をしっかりと見極めて刈り遅れないよう注意する。

☆ 登熟日数の比較 (作況試験データより)

年次 \ 品種名	コシヒカリ	秋の詩
昭和61年~平成15年	32~40日	-
平成16年~28年	30~37日	34~42日

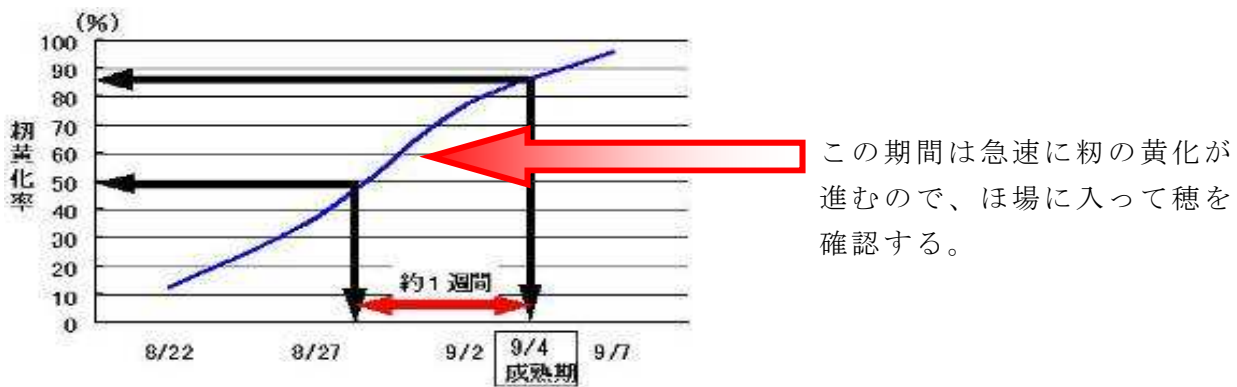


図3 成熟期前の籾黄化率の推移(農業技術振興センター2008年「コシヒカリ」)

注) 調査方法: 黄化籾の標準見本色を基準に黄化籾と青籾を目視で計数。

【適期収穫のポイント】 ★葉色に惑わされず、ほ場に入って穂をしっかり確認する。

収穫適期の目安	①上から3～4本目の枝梗につく籾が全て黄化した頃 ②籾黄化率85～90%
---------	---

★収穫7日前の目安: 籾黄化率50%程度 ・ ・ ・ 収穫適期判定板を活用

適期収穫で胴割粒を減らそう!
収穫適期判定板

使い方

- ほ場全体を見て、平均的な場所に入ります。
- 穂に判定板(裏面)の色がついている部分をあてます。
- 黄色く熟した籾(モミ)の割合を見て収穫時期を判断します。(判定板の色は熟した籾の色目安です。)

※黄色に変わった籾に、籾の緑色をみて判断してください。

特に8月～9月の気温が高くなった場合は要注意

●近年、出穂後(8月～9月)の気温が高く、登熟日数が短くなってきています(下の表参照)。
●最も短い年は、「コシヒカリ」で30日、「日本晴」で32日、「秋の暁」で34日となりました(平成22年)。

年次	品種名	コシヒカリ	日本晴	秋の暁
平成3年～12年		37日 (34～40日)	41日 (34～48日)	-
平成13年～22年 (最近10年間)		33日 (30～37日)	38日 (32～40日)	39日 (34～44日)

近江米振興協会

(3) 病虫害防除

7月19日発表の「病虫害発生予報第7号」(<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/yoho/yoho29/yoho07.html>)を参照

予報第7号より抜粋

穂いもち(発生時期: 平年並、発生量: 平年並)

- 7月に収穫する極早生や早生品種では、発生しやすいので特に注意する。
- 粉剤や液剤で防除する場合は、防除適期を逃すと著しく効果が低下するので、必ず穂ばらみ期～出穂期に防除する。
- 耐性菌を生じやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。



穂いもち

紋枯病（発生時期：平年並、発生量：平年並）

- ①前年の発生の多かったほ場では特に注意する。
- ②防除の目安は、極早生・早生品種では発病を認めた場合、中生・晩生品種では出穂20日前の発病株率が15～20%以上。
- ③病勢進展初期（幼穂形成期～穂ばらみ期）に株元までよくかかるように薬剤を散布する。

斑点米カメムシ類（発生時期：やや早、発生量：やや多）

病虫害防除所による6月下旬実施のけい畔上のすくい取り調査では、カスミカメムシ類の発生量はここ5年間で最も多い。斑点米カメムシ類に対する、出穂期以降の薬剤による防除適期は次のとおり。

- ①畦畔や雑草地にカスミカメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）の発生が多い場合は、乳熟期頃（出穂7～10日後）に防除する。
- ②出穂期に大型斑点米カメムシ類（ホソハリカメムシ、クモヘリカメムシ、トゲシラホシカメムシ）が確認できるほ場では、糊熟期頃（出穂10～20日後）にも防除する。
詳細は防除情報第2号 <http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/bojoinfo/2017/2017boujo02.html> を参照。

（斑点米カメムシ類の写真）



アカスジカスミカメ



ホソハリカメムシ



トゲシラホシカメムシ

【参考サイト】

農業技術振興センター

<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/nogyo/>

病虫害防除所

<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/>

彦根地方气象台

<http://www.jma-net.go.jp/hikone/>

異常天候早期警戒情報

<http://www.jma.go.jp/jp/soukei/>



**★5月上旬移植では8月18日前後に成熟期を迎える見込み
「収穫までの丁寧な水管理」と「適切な病害虫防除」の徹底を！
生育が早まっているため、収穫時期の見極めには注意が必要！**

☆ 「みずかがみ」の生育状況

「みずかがみ」の出穂期と成熟期(近江八幡市安土町大中)

移植日	出穂期		成熟期			
	本年	本年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
5月2日	7月17日	8月18日(予想)	8月20日	8月26日	8月19日	8月18日
5月17日	7月25日	8月26日(予想)	8月26日	8月29日	8月27日	8月26日

1)成熟期は、葉齢進展と過去の試験結果により予想。
2)移植日:平成25年は5月2日・15日、平成26年は5月2日・14日、平成27年は5月1日・15日。

☆ 今後の栽培管理対策

(1) 水管理

- 品質・食味向上のために、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行う。
- その後、収穫5日前まで間断かん水管理を実施する。

(2) カメムシ類対策

- 「みずかがみ」は他の品種より出穂期が早いため、防除時期が遅れないよう注意する。
- 病害虫発生予報第7号によると、斑点米カメムシ類(なかでもアカスジカスミカメ)の発生時期はやや早く、発生量はやや多いので、乳熟期頃に確実に防除を行う。
- 大型カメムシ類を確認したほ場では、糊熟期頃にも防除を行う。

(3) 適期収穫

- 5月上旬移植の場合、**盆明け早々に成熟期を迎える**ことが予想されるため、収穫・乾燥作業の準備を早めに実施する。
- 収穫は**籾の黄化率(約85~90%)**を確認し、適期に実施する。
- 近畿地方1か月予報によると、平均気温が高い確率は50%で、登熟日数が短くなる可能性が高いため、刈り遅れに十分注意する。

○ 「みずかがみ」の生育状況(7月25日時点)

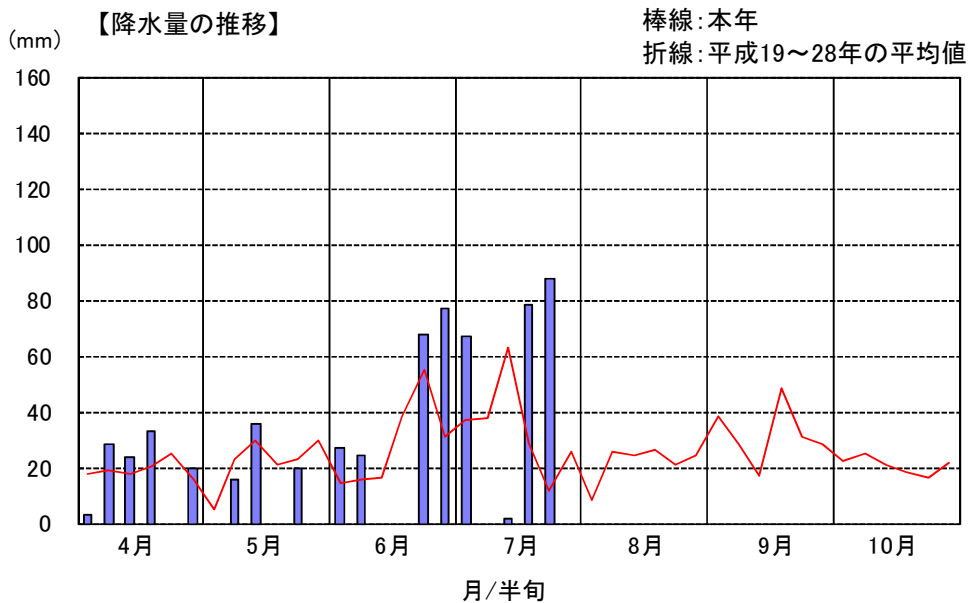
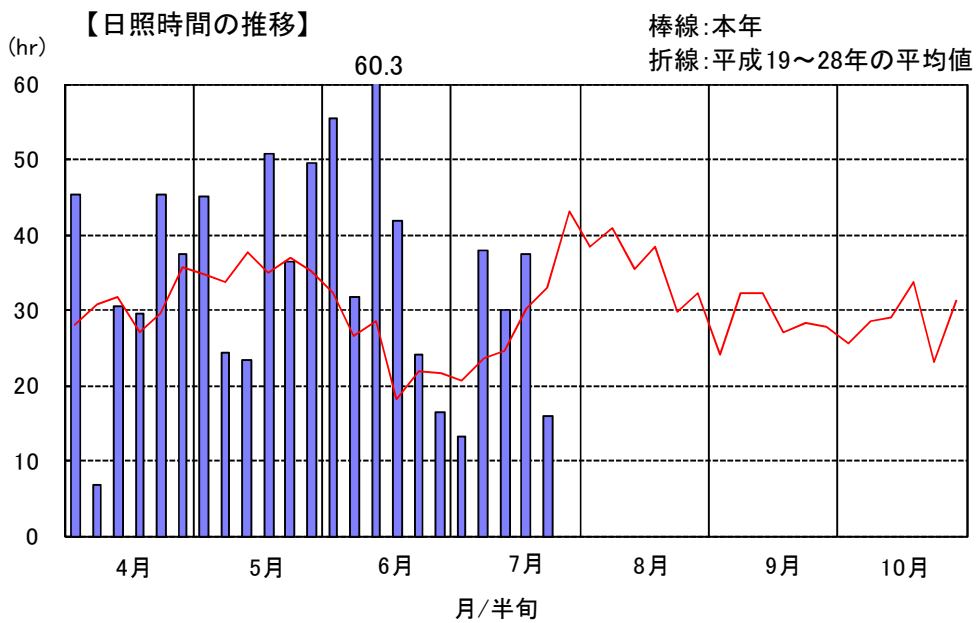
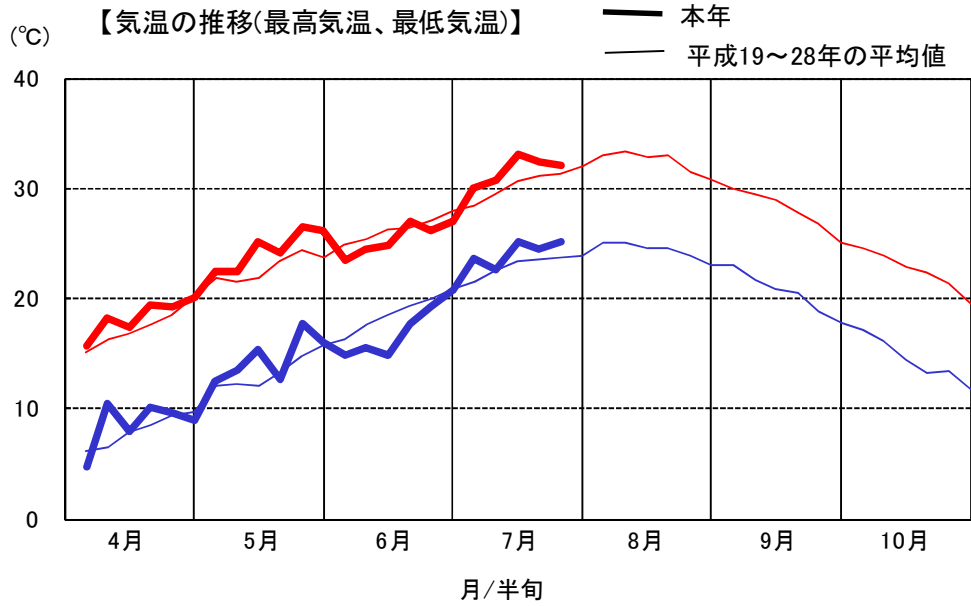


5月2日移植



5月17日移植

平成29年(2017年) 水稻作期間半旬別気象図(彦根気象台観測)

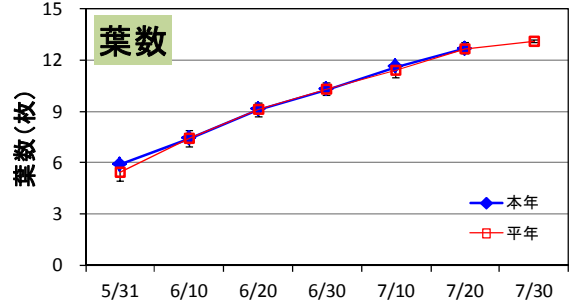
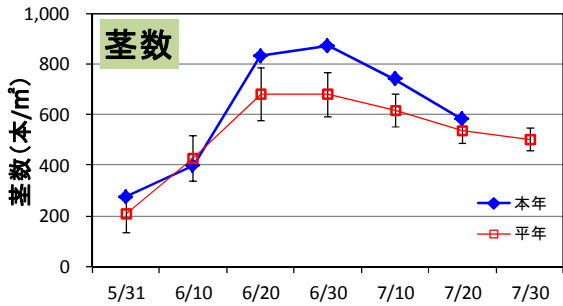
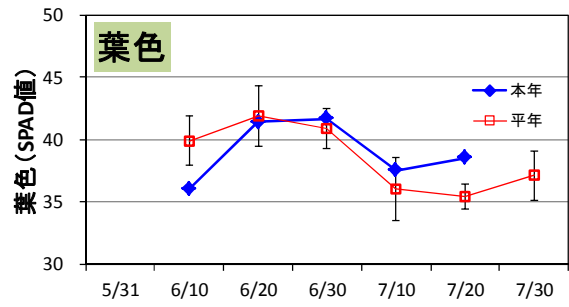
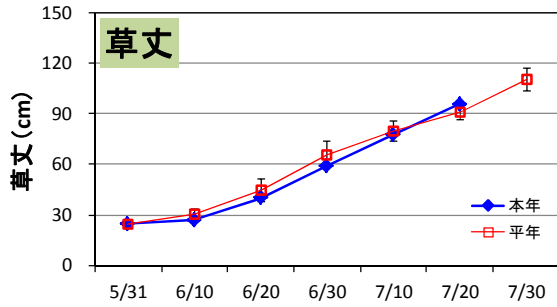


注) 平年は平成19~28年の平均値。 5月,7月,8月,10月の第6半旬の降水量および日照時間は6日間の合計値。

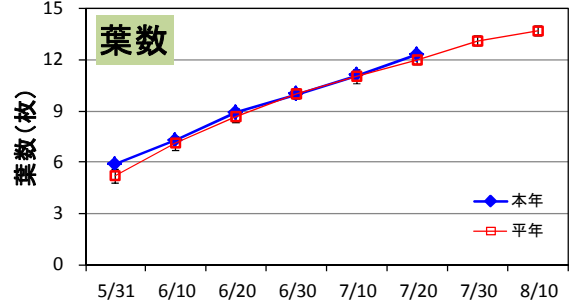
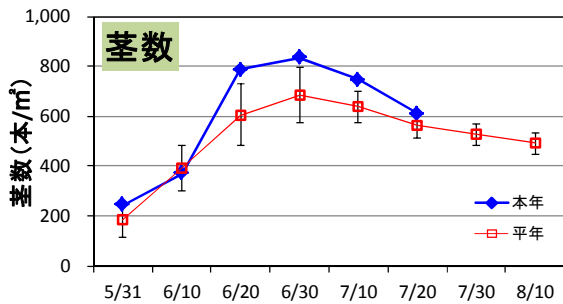
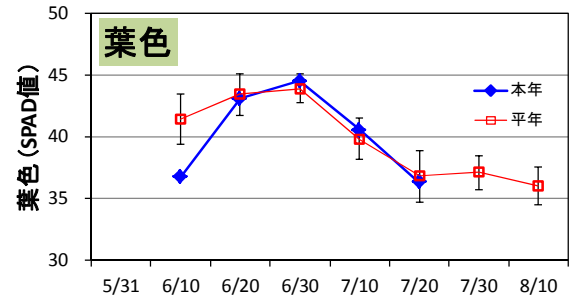
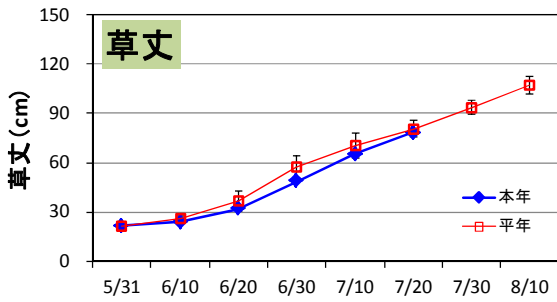
平成29年(2017年) 水稲作況調査 生育調査結果

農業技術振興センター(近江八幡市安土町大中)
 移植: 5月10日(播種: 4月20日)
 栽植密度: 22.2株/㎡、植付本数: 4本/株

「コシヒカリ」



「秋の詩」



注) 生育調査の平年は平成19~28年(10年間)の平均値。平年値のエラーバーは標準偏差。